



「風のような速さ」ってどのぐらい？



MYしずおか日本一では、生産量や出荷額、輸出額といった産業に関わる統計が多いのですが、今回は速さにまつわる日本一を取り上げます。

静岡県では、昭和17年（1942年）4月5日に、最大風速72.5m/秒という猛烈な風を観測し、また、昭和41年（1966年）9月25日には、最大瞬間風速91.0m/秒が観測され、それぞれ日本一となっています。（表1）

一般的に風速は、10分間の平均風速のことで、その最大値が「最大風速」であるのに対して、瞬間的に吹いた風の強さが「最大瞬間風速」です。

最大風速72.5m/秒以外は、全て台風によって観測されました（静岡県の最大風速は低気圧の影響）。どのぐらいの速さだったのか、最近の台風と比較してみましょう。氾濫・冠水・土砂崩れなどの大きな被害をもたらした「平成29年台風第21号」でみると、東京都で観測された最大風速が35.5m/秒とされているので、表1の記録はさらに強力な風だったということが分かります。

静岡県の二つの記録は、共に富士山の山頂付近で観測されたやや特殊な記録ですが、地上で記録された高知県や沖縄県の風は、極めて危険であったことが伺えます。

最大風速 (m/秒)				最大瞬間風速 (m/秒)			
順位	都道府県	風速	観測日	順位	都道府県	風速	観測日
1位	静岡県	72.5	1942年4月5日	1位	静岡県	91.0	1966年9月25日
2位	高知県	69.8	1965年9月10日	2位	沖縄県	85.3	1966年9月5日
3位	沖縄県	60.8	1966年9月5日	3位	高知県	84.5	1961年9月16日

表1



出典：「2014年版気象年鑑」日本気象協会

表2は、気象庁で使う風の強さの基準です。毎秒30m以上の風速に対して「猛烈な風」という表現を使うので、それらの基準の2～3倍の風速という、激しさがよく分かります。

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/秒)	主な影響
やや強い風	10～14	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。
強い風	15～19	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。雨戸やシャッターが揺れる。
非常に強い風	20～29	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物で負傷するおそれが出る。ビニールハウスのフィルムが広範囲に破れる。トラックが横転する。
猛烈な風	30以上	屋外に出るのは極めて危険。ブロック壁や住家が倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。

表2

出典：気象庁「風の強さと吹き方」より、一部抜粋

明日の△△市の天気は荒れ模様です。ところにより、風速25メートルを超える、「非常に強い風」が吹くところがあるでしょう。

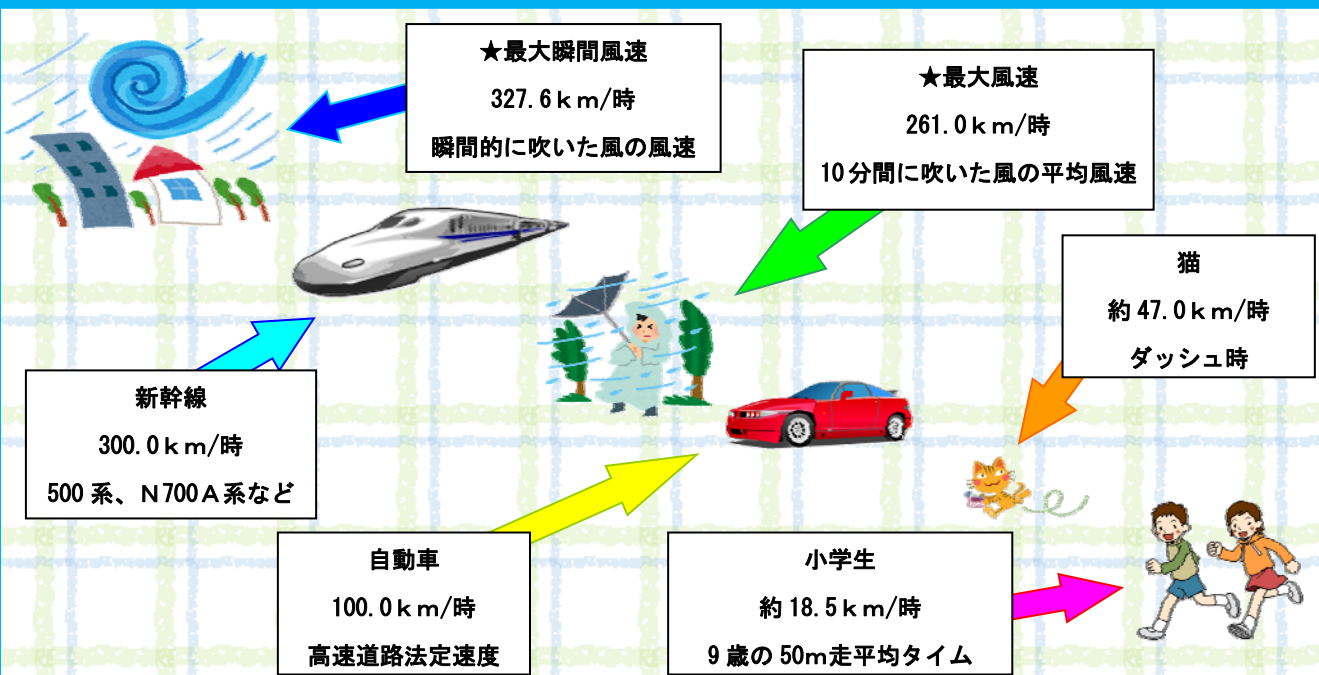


★豆知識★：会話によく使われる「瞬間最大風速」は気象用語では誤りで、「最大瞬間風速」と言います。

ところで風速は基本的に秒速で表しますが、一秒に進む風の距離というのは今ひとつ実感が湧かないので、時速に直してみましょ。最大瞬間風速91.0m/秒は、時速にすると327.6km、最大風速72.5m/秒は時速にすると261kmになります。どのぐらい速いのか、他のものと比較してみましょう。

m/秒をkm/時になおす時は
m/秒に3.6を掛けてね！



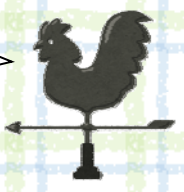


出典：文部科学省「平成28年度体力運動能力調査」、小学館の図鑑NEO+ぷらす「くらべる図鑑」、道路交通法第22条第1項

比較してみると、日本一の風速がいかに凄いのかが分かります。高速道路を走る自動車より遥かに速く、新幹線レベルのスピードなのです。速いものに対して、よく「風のような～」という表現が使われますが、新幹線はまさしく風のようなスピードが出ているというわけです。

風のスピードを計測する際は、風速計が使われます。気象データを得るための本格的な装置から、理科の実験や陸上競技で使われる手持ちサイズなど、種類や規模は様々です。

教会などで見られる風見鶏は、下部の東西南北の四方位が十字型で示され、風向を知ることができます。また、建物の装飾や、警戒心の強い雄鶏の習性から魔よけとしての意味あいもあるそうです。



世界には300.0 km/時を超える風が吹いたというデータが存在するのですが、その多くは風が強すぎて装置が破壊されてしまったり、竜巻が発生したり※という理由で非公式記録になっています。強すぎる風は記録に残すことすら困難なんですね。

風の吹き方もいろいろありますが、速すぎる風は少々危険であるということが分かりました。

猫のダッシュは47.0 km/時。これは、「気象庁風力階級表」によると風力6ぐらいになるんだ。風力6は天気予報でやや強い風と言われるぐらいだね。

小学生の18.5 km/時は風力3ぐらい。それぞれが「風のような速さ」で走れるね！



※竜巻は寿命が短く、観測所を通過する確立が低いため、被害から強さを計測する特別な指標を使っている。